

北海道文教広報



撮影/岩尾柊摩(写真部部长)

2024年は年明け早々、能登半島地震や航空機炎上事故と相次いで予期せぬ厳しい事態が発生しました。被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日でも早く復旧し、日常の生活に戻れるよう、お祈り申し上げます。

さて、3月は卒業・卒園のシーズンです。これまで本学園で学び、成長した皆さんが新たな世界へと出発します。皆さんの門出を祝して、心よりお祝い申し上げますとともに、関係各位のご尽力、また、保護者の皆様の多大なるご理解とご協力に、深く感謝申し上げます。

4月には新しく学生、生徒、園児を迎えます。本学園での学びにより、皆さんの可能性が広がることを願い、教職員一丸となって学修環境の充実に取り組んでまいります。

今後の教育環境に目を向けますと、人口減少の影響は大きく、特に18歳人口の減少による大学間の学生獲

得競争は激しさを増すと予想されます。また、急速に進展するAI化やグローバル化は、社会に多様化をもたらす一方、将来の変化の予測が一層困難な時代となっています。

本学園では、こうした時代の中でも、人間らしく生きていくことが最も重要であると考えており、「人」を真ん中に位置づけた人間教育、これまで実践してきた実学重視の教育をしっかりと継続し、主体的に学び創造的に考える人材、地域の創生発展をけん引する人材の育成に努めてまいりたいと考えております。

引き続き、本学園の教育・研究活動にご支援とご高配を賜りますようお願い申し上げます。



学校法人鶴岡学園 理事長
鈴木 武夫

2024年4月1日、人間科学部に「地域未来学科」誕生 地域社会で活躍したいひと、この指 「好き・楽しい・面白い」を感じられる「実学」を教えます

人間科学部に新設の「地域未来学科」がいよいよスタートします。地域未来って何？ と思う人が多いことでしょう。そこで、新学科をけん引する木村俊昭教授に地域未来学科の特徴を伺いました。



■ 地域未来学科 (2024年4月開設) 木村俊昭 教授

1960年生まれ。慶応義塾大学大学院博士課程単位取得。1984年、小樽市役所入庁。歴史的建造物を活用したライトアップを全国に先駆けて実現させるなど小樽のブランド化に力を注いだ。その後、国家公務員に転じ、内閣官房・内閣府や農林水産省で地域再生事業に携わる。東京農業大学をはじめ、東京大学大学院など数多くの大学・大学院で教え、2023年に本学の特別学長補佐・教授に就任。「地域創生 成功の方程式—できる化・見える化・しくみ化—」(ぎょうせい)など著書多数。

地域創生の凄腕が陣頭指揮

地域創生のスペシャリストで、“人財”育成に尽力してきた木村俊昭教授。超高齢化、人口減少という難題を抱える日本社会の未来について、まず聞いてみました。

「医療介護保険制度や年金制度など社会保障制度の見直しが迫られるようになりますし、医療・介護現場の人員不足、行政職員不足、労働人口の減少と経済縮小などが予想されます。また、住み暮らす地域に目を転じると、まちの自走や継続性、“人財”養成のしくみなどが課題と考えています」

地域未来学科では、こうした問題に取り組んでいける“人財”育成を目指しています。ここで期待されるのが、日本地域創生学会会長、地域創生実践総合研究所所長なども兼任する木村先生の経験です。

「私が公務員だった頃、日本社会は残業するのが当たり前の風潮でした。でも、私は17時半になると退庁し、外部の人たちとの交流に時間を使っていました。内閣官房・内閣府時代に、上司から突然、明日の朝までに書類を作成して、自分の意見も書き添えて提出せよという指示を受けたことがありました。見るとそれは外国語であり、辞書を片手に翻訳する時間もなく、職場で培った人脈を活かして、翌朝の提出に間に合わせた

ことがありました。仕事一辺倒の生活では人間的な成長の機会が限られてしまいます。自分は何が強みで、弱みはどんなところなのか。それを十分理解しつつ、パートナーを見つけ出し、協働・共創する。その結果、残業をしない仕事環境が実現しました」

「実学」を教える教員がいるのが 大学選びのコツ

地域未来学科では、「実社会で役立つノウハウ、実学を教える」としています。たとえば、企業などが持続するためのポイントである「深化と探索」、また、「社長の任期」「社外取締役の人数」などによる就職先の見極め方など、より具体的で役立つ講義や、起業の方法も講義に盛り込むそうです。

「私は、地域創生・SDGsの“人財”を育むためのプログラムを研究開発し、自分が主宰する木村塾、木村ゼミで導入しています。このプログラムを受けた学生や社会人の中には市町の首長や教育長、議員、会社経営者になった人もいて、本学でも実践する予定です。地域貢献や社会貢献に必要なマネジメント、プロデュース、自分は何をやりたいのか、特に人間関係づくりとコミュニケーションの自己分析・自己理解・他者理解・相互理解やチームでの仕事の進め方などを4

と～まれ!



年間でしっかり身につけてほしいですね。

また、木村ゼミ講義内容の一部として、履歴書の効果的な書き方、企画書の作成方法、熱いプレゼンテーションの仕方、人間関係づくり、チームワークの大切さ、コミュニケーション（対話）の仕方、マスメディア対策（最適なPR方法）、先行研究に学ぶ（先人に学ぶ）、実学の経営学・心理学、行動経済学、悩みの解決法、防災、減災対策（実践現場）など、通常は高校や大学、大学院で教えないことを繰り返し学んでいただきます」

地域未来学科では、木村教授を筆頭に、北海道大学や宮崎大学など各地で活躍中の実務にも長けた研究者が教壇に立ちます。

「大学選びは大学名ではなく、どの先生がいて、自分が希望する実学を学べるかが重要だと考えます」と、木村先生は熱く語ります。

地域未来学科の学生は健康栄養学科やリハビリテーション学科など、本学の特学科の講義も受講できるだけでなく、実習メニューも豊富です。

即戦力となる“人財”育成を目指す地域未来学科での取り組みは、今後も折にふれてレポートする予定です。どうぞ、ご期待ください！



特集 地域と、未来と、大学と。

“食”で伝える健康未来

北海道文教大学(HBU)は、1942年に開校した「北海道女子栄養学校」から発展しました。「国民の健康は国の力」と唱えた創設者の鶴岡新太郎・トシ夫妻は、食糧難の中で知恵を絞りながら食材を集め、調理実習を続けました。そして、現在もHBUは「食」をキーワードに、地域社会に貢献しています。

街なかの食育アイドル「えにわっ娘。」&「イザリス」パワー全開中!

HBUの学生によるアイドルユニット「えにわっ娘。」と妹分の「イザリス」。ライブやイベント、企業とのコラボレーションなどを通じて、食の大切さを広く伝えています。それぞれのメンバーに活動の面白さを聞いてみました。

えにわっ娘。(かんの花音りおな)

アイドル活動で肝が座ったのか、どんなときもあまり動揺しなくなりました。ライブとか食育講話は、生で届けるものだからハプニングはつきものですが、臨機応変に対応しています。この調子だと、就職面接なども堂々とふるまえそうです。

今年の目標はアイドルとしての質を高めること。もちろん、“激短”でも勉強時間だけは確保しています!



FM e-niwa [もぐらじ]
隔週水曜日12:30~
「ココロに栄養を」出演中

イザリス(秋月ひなた)

「食育ライブ」を通じて食と健康について啓発できるのがとても楽しく、やりがいがあります! 実際、先日のライブで、「ラーメンの汁には塩分が多いから飲み干さないようにしようね」と伝えたところ、実践された方がいました。

今年から臨地実習が始まるので忙しくなりますが、学業と活動を両立させて、大きなステージにも立ちたいです!



イザリスのライブにぜひ!

島田農園
×
えにわっ娘.の
コラボ米が
できました!

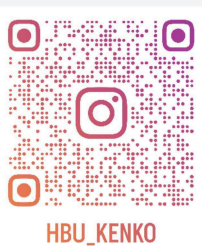
おからを使った飲料でSDGsに貢献!

福岡県に本社がある飲料メーカーの株式会社ふくれん。包括連携協定によりHBUと協同で人間科学部健康栄養学科の「食品開発Lab.」に所属する学生たちが、同社の製品「まるごと大豆飲料 大豆スモージー」と「国産大豆無調整豆乳」を使い、56品目のレシピを開発しました。

まるごと大豆飲料 大豆スモージーは、健康とSDGs



に配慮して、通常は取り除かれ廃棄される食物繊維豊富なおからを利用した製品です。「食」でSDGs! HBUではさまざまなかたちで持続可能な社会の実現に取り組んでいます。



HBU_KENKO

HBUの“知と技”で社会に貢献「目指せ100歳ライフ! 脳トレクッキング」

11月18日(講義編)と11月25日(実技編)に、HBU校内でシニアを対象に料理教室を開きました。

「栄養と健康、おいしさに影響する調理法などの理論を学び、作っていただくことで、100歳ライフを目指す元気なシニアが増えてほしいと考え企画しました。また、料理や食による交流の場で楽しんでいただくことも開催目的の1つです」と、担当した健康栄養学科の山森栄美准教授。

参加した60~70代の11名の皆さんは、協力しあいながら、楽しそうに茶巾ずしや栗かのこなど4品を作り、「家でもう一度トライしてみようと思います!」といった声も上がったほど盛況でした。



真心をこめた手づくりお弁当で フットサル「エスポラーダ北海道」の選手を応援！

11月12日は日曜日。北ガスアリーナ札幌46でエスポラーダ北海道vsバサジィ大分戦が開催され、健康栄養学科の1年生が選手たちにお弁当を届けました。

給食委託会社の株式会社LEOCの協力のもとで作ったお弁当のテーマは「北海道巡り」。いもち、塩焼きそば、鶏ジンギスカンなど北海道らしさを演出した料理を用意。「先輩にもアドバイスをもらい、食べる人の気持ちや栄養価、コストを考慮して

作りました。皆さんに喜んでいただけて達成感がありました」と健康栄養学科1年の萬田春花さん。

がんばれ、エスポラーダ北海道！

喜んで
いただけて
うれしい！



韓国風鶏唐揚げワッフルコーン 今春からエスコンフィールドHOKKAIDOで販売！

この3月で開業1周年を迎えた「エスコンフィールドHOKKAIDO」。グルメやショッピングエリアも充実し、遊び場スポットとしても人気を集めています。話題満載のその場所で、健康栄養学科で学ぶ2年生5名が開発した「ヤンニョムチキンワッフルコーン」が、今春から販売されることになりました。

これは、ワッフルコーンの中に、韓国料理の調味料コチュジャンで味付けをした鶏唐揚げとレタスを詰めたもので、チーズソースをトッピング。サクッとした触感のワッフルコーンと甘辛い鶏唐揚げの組み合わせが絶妙で、後を引くおいしさです。

1月30日、日本ハムの社員らによる審査会が開かれ、「試合を見ながら食べられるのがよい」「見た目がよ

い」「売れ筋商品になる」といった感想が！「見栄えがよくなるよう彩りにこだわり、試作品ではチーズが固まってしまったので、種類を変えるなどして工夫しました」と話す5人組は、「食品開発論」の授業の一環で開発したものが採用されたとあって大喜び。ヒット商品となりますように！



特集 地域と、未来と、大学と。

大学の“知”を地域へ HBUシンポジウム・公開講座・地域連携

HBUでは毎年、誰でも無料で参加できる公開講座やシンポジウムを、学内と恵庭・札幌市内のホールなどで開催しています。テーマは老化予防対策や食生活など健康関連を中心に、歴史、文化、IT関連などさまざまです。2023年度後期に開催された一部の講座と地域連携をご紹介します。

看護学科 第2回 恵庭市両親教室 赤ちゃんとお母さんの健康を願い、妊娠中、出産、育児まで

2023年度からHBUでは、妊娠中のお母さん・お父さんを対象に、恵庭市の「両親教室」を開催。指導にあたるのは恵庭市のえにっこ応援センターの保健師と助産師の資格を持ち現場経験もある医療保健科学部看護学科の教員です。2回目となった9月20日の教室には、妊娠中期から来月出産予定という妊婦さんまで参加し、赤ちゃんモデルを使い、抱っこや沐浴、おむつ交換などを体験しました。慣れない手つきでおむつ交換に挑戦する皆さんの表情は真剣そのもの。助産師に質問する場面も見受けられました。



出産できる病院がない恵庭市に住む妊婦さんや家族にとって、この教室は不安を解消できる機会でもあり、今後も続ける予定です。



リハビリテーション学科 「体幹は血流を改善するか？～生活習慣病と姿勢の関係～」

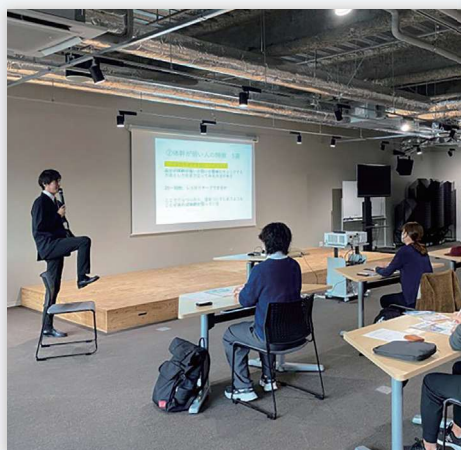
JR札幌駅東口にあるコネクティッドスペース「EZOHUB S APPORO」。HBUと包括連携協定を結ぶサツドラホールディングス株式会社が運営するこの施設で、11月2日に医療保健科学部リハビリテーション学科の金子翔拓教授（作業療法士）が生活習慣病と姿勢の関係をテーマに、姿勢が健康に及ぼす影響について講演しました。

後半は、金子教授と研究学生の学生による実技指導。腹筋や背筋を使ったエクササイズに、20～70代の参加者は四苦八苦。「からだのサビつき具合が実感できました。自宅でもやらずに！」といった声が聞かれるなど、前向きな感想が寄せられました。

11月2日にはHBUの実習室で恵庭市民が参加する健康教室も行われ、思うような動きができず、会場のあちこちから苦笑とため息が……。

「正しい姿勢を保つと、足腰の痛みの予防や軽減につながります。そして、ダイエット効果も期待できるん

ですよ」と金子教授。なお、2024年度のセミナー日程は決まり次第、公式サイトでお知らせします。



産学官連携でアクティブ・ラーニング HBU街なか課外活動

こども発達学科 「表現力スキルアップ講座 劇団きいろ第7回公演 「オズの魔法使い」と「シンデレラ」

学内では「こ発」の略称で呼ばれている人間科学部こども発達学科。保育士や幼稚園教諭、小学校教諭などをを目指す学生が学んでいます。

教育現場でこどもたちと日々接していくには、高いコミュニケーション能力や表現力が求められます。こども発達学科ではその技術を身につけようと、「表現力スキルアップ講

座」を用意。受講する学生たちが、毎年12月に舞台公演を行っています。

7回目の今回は、12月10日に学生20名が参加して鶴岡記念講堂で開催。「実習などそれぞれが忙しい中で、日程を調整して繰り返し練習しました。公演では会場のこどもたちと一緒に踊る場面もあって、会場全体が盛り上がり、全員で楽しめたと思



ます」と、メンバーで3年生の西尾優花さん。8回目も楽しみです！



国際学部 南幌町の「English Camp」に ボランティア参加

南幌町と南幌町教育委員会の主催で毎年行われている「English Camp」。小中学生が英語に慣れ親しむことを目的に、英語だけでコミュニケーションする英語漬けのイマージョン・プログラムです。今年度は2023年11月10日から11日まで1泊2日で野外アクティビティの予定でしたが、当日はあいにくの悪天候。会場を中学校の体育館に変更して行われました。

HBUから参加したのは、外国語学部国際言語学科4年生の成田雛乃さんと久原咲希さん、国際学部国際コミュニケーション学科3年の岩谷叶晟さん、同じく1年生の森飛颯さんの4名。南幌町の英語ネイティブスピーカーのALT（外国語指導助

手）の方々とともに英語でゲームをしたり、歌ったり、パスタ料理を作ったり。すべて英語でやりとりしました。「学生たちはALTとこどもたちの通訳をしながら、英語でコミュニケーションする楽しさを体験しました。南幌町教育委員会からは、学生たちの子供たちへの気配りやコミュニケーション能力の高さにお褒めの言葉をいただきました」（岡本佐智子教授）

国際言語学科・国際コミュニケーション学科の学生は、南幌町教育委員会主催の「イングリッシュ・トライアル」にもボランティア参加しています。これは中学1年生が英語を使って、自己紹介から道案内や買い物などの英会話能力向上を支援するも



ので、ネイティブスピーカー教員と同等の役割を楽しみながらこなしています。翻訳機が普及している昨今。便利とはいえ、自分の言葉でコミュニケーションがとれたほうが気持ちは伝わりそうですね！



2023北海道文教大学 恵華祭

10月7日・8日、恒例の「北海道文教大学 恵華祭」が開催されました。今回のテーマは「鶴音（たずがね）～つまんねえはずがねえ～」。鶴のように舞い上がり、来場者の方々にたくさんの笑顔や元気を届けたいという願いを込めたテーマです。

50名の実行委員は会議を重ねて自分のできることに力を尽くし、恵

華祭を作り上げました。模擬店の出店や有志ライブなどイベントもさまざま。おかげさまで、多数の恵庭市民の皆さんに会場いただき、思い出に残る恵華祭となりました。

ありがとうございます！



スポーツ推し！ 鶴岡学園はアスリートを応援しています

HBUの野球部や女子アイスホッケー支援部をはじめ、附属高校ではレバンガ北海道U18の選手たちが学ぶなど、鶴岡学園はアスリートの育成や支援にも力を注いでいます。2023年度後半の主な話題をご紹介します。

大学野球部の屋内練習場では国内最大規模 「北海道文教大学スポーツアリーナ」オープン

吹き抜け・
人工芝の球場

5月から建設工事が行われていた北海道文教大学スポーツアリーナが、11月14日に竣工しました。硬式野球の内野が2面分収まる広さで、人工芝が敷き詰められています。これにより野球部の選手たちは冬期間も通常の練習ができるようになりました。

充実した設備はスポーツ振興に欠かせない要素です。鶴岡学園では野球以外のスポーツイベントなどで、地域のスポーツの発展にも役立ててもらう予定です。

甲子園強豪校からも入部！ 「運動選手自己アピール型選抜」

野球部は2023年札幌6大学野球春季リーグ戦から2部に初めて昇格し、秋季リーグ戦では惜しくも優勝を逃しましたが2位となりました。また、12月に行われた「運動選手自己アピール型選抜」では甲子園大会出場校の選手など29名の入学が決まり、2024年度春季リーグ戦で1部昇格を目指しています。1月12日にはSTVニュースの特集で、「名将と下剋上野球部⑤いよいよ勝負の3年



5人同時に
練習できる
ブルペン

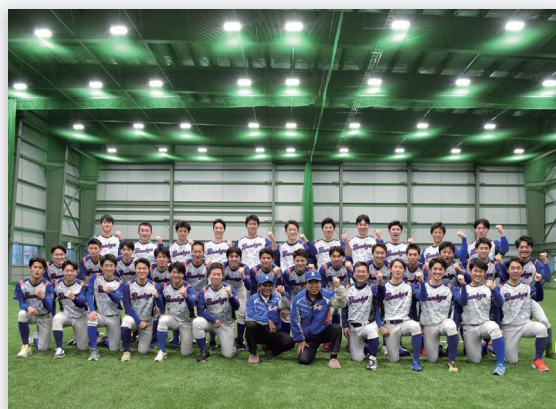


入口は
こちら

入口の
反対側にロゴが！
国道36号線を
走る車の新ランド
マーク



敷地面積35m×72m 高さ9.5m



環境を活かして
1部を目指す！

目」も放映され、高橋葉一監督率いる選手たちの「スポ根」物語が反響を呼んでいます。まずは北海道一を目指す選手たち。その先には日本一の栄冠が待っている！



オリンピック強化指定選手も参加！ スポーツ領域理学療法技術セミナー開催

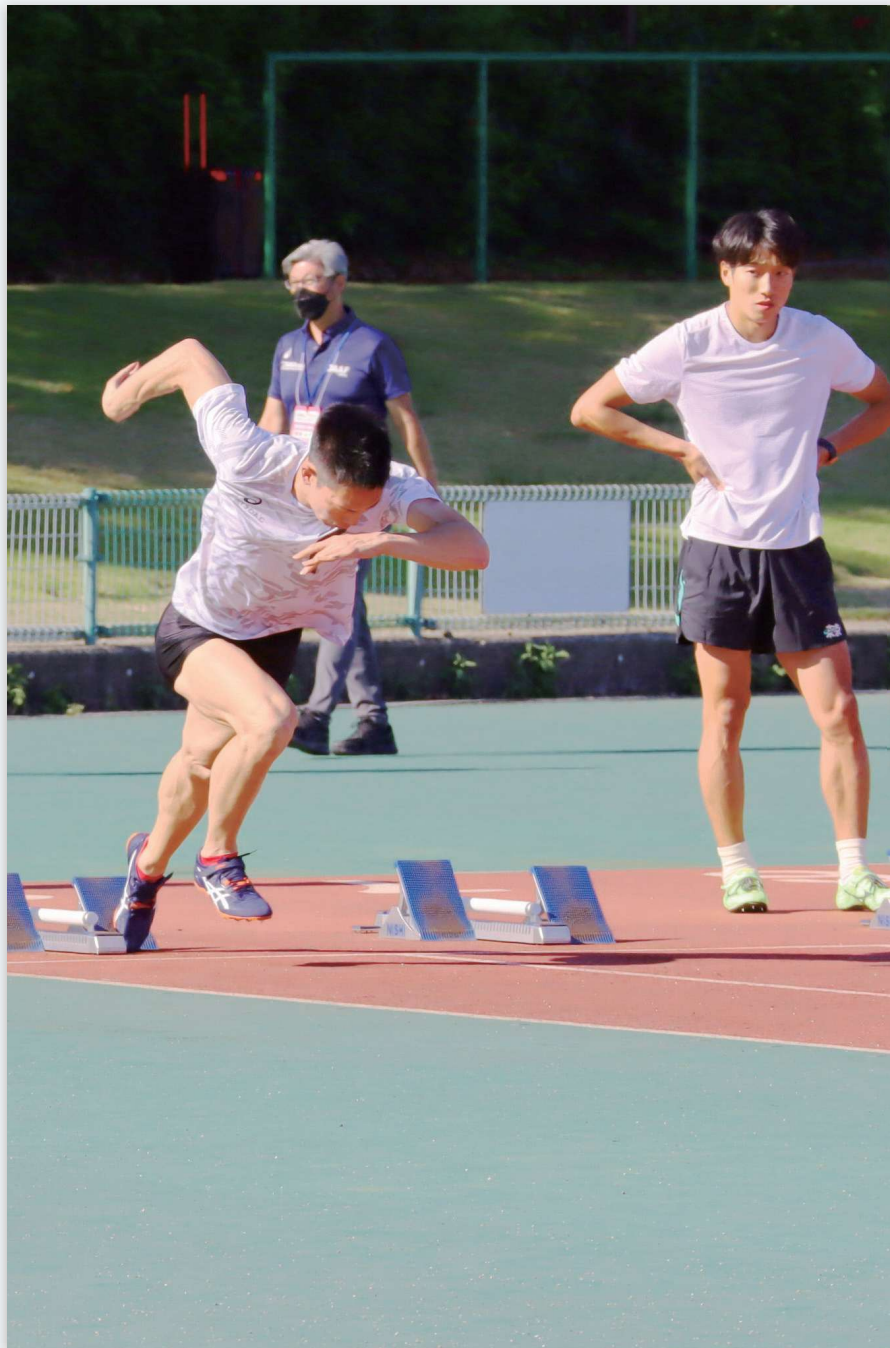
2023年12月12日、3号館治療室で行われた人間科学部理学療法学科3年のスポーツ領域理学療法技術セミナー（担当：高田雄一教授）に、男子110mハードルオリンピック強化指定選手、高橋佑輔選手（北海道ハイテクAC）をお招きしました。高田教授は高橋選手のトレーナー。アスリートの成績向上に役立つ「入谷式インソール」も作製して役立ててもらっています。

この特別講座には理学療法学科3年生14名が参加。「学生たちはオリンピック出場を目指す国内トップアスリートの講義を真剣に聞いておりました。また、高橋選手から出された課題にも集中して取り組んでいます」と話す水本淳講師自身も高橋選手の講義を聴講。「国内現役トップアスリートから直接、話を聞く機会

はめったにありません。私自身も高橋選手が競技において、どんな痛みを抱え、どんなことで悩み、理学療法士にどんなことをサポートしてもらいたいかを直接聞くことができ、たいへん勉強になりました」

高橋選手は、近年の国内110mハードルにおける、タイム向上についての考察も披露しました。「将来、アスリートの競技を支える理学療法士を目指す学生にとって大きな刺激となった講義でした」と水本講師。

現在、理学療法士の就職先は医療・福祉分野が中心ですが、スポーツ分野はもちろん、今後は予防医療の担い手としての活躍の場が増えることでしょう。HBUではこうした特別講義を開き、学生の学修意欲を応援していきます。



注）人間科学部 理学療法学科は、2023年4月の医療保健科学部リハビリテーション学科の新設に伴い、2023年度以降の学生募集を停止しています。

なお、理学療法学科で行われていた教育・研究等については、リハビリテーション学科において行っています。



新千歳空港までクルマで20分

アクセス抜群の恵庭から地域へ、世界

女子アイスホッケー志賀紅音さん カナダチーム「PWHL Ottawa」で活躍中

HBUは、オリンピックに出場した健康栄養学科の米山知奈助教や高涼風さん(2018年度卒)、志賀紅音さん(2022年度卒)、伊藤麻琴さん(こども発達学科)、ラック陽コラソンさん(国際学部国際教養学科)ら、スマイルジャパンの選手を輩出し、北京2022冬季オリンピックや世界選手権などで活躍しています。

2023年1月にアメリカで開催されたFISU冬季ワールドユニバーシティゲームズには志賀さんをはじめ、6名の文教大生が出演して、史上初の銀メダル獲得に貢献。同年3月に卒業した志賀さんは11月にカナダへ渡り、オタワを本拠地とする「PWHL Ottawa」のトライアウトに挑戦。見事に契約を勝ち取り、今年1月から北米で行われているプロアイスホッケーリーグ(PWHL)でプレーしています。

世界のトップ選手が競合する中で、日本人は志賀さんだけ。新たな環境の中でがんばっている志賀さんから最新状況が届きました。



現在、カナダの首都であるオタワで、プロアイスホッケー選手として生活しています。世界最高峰の選手たちと一緒にプレーし、なかなか自分のプレーができず悩むことも多いですが、「日本に居ては生まれない悩み、毎日がいい経験だ」とポジティブにとらえ、日々、自分自身と向き合いながら過ごしています！

こちらの気候は北海道に似て過ごしやすく、競技をする環境もよいので、ホームシックにはなっていませんが、「食」だけは日本に劣るので、日本食のことはばかり考えています！

医療保健科学部リハビリテーション学科 高田雄一教授 中国で講演

「入谷式インソール」の作製で、陸上競技を中心に多くのトップアスリートをサポートしてきた医療保健科学部リハビリテーション学科の高田雄一教授(理学療法士)。「日々進展する日本のリハビリテーション技術やリハビリテーション医療の役割などを、アジア諸国に伝えたい」と、2022年12月のバングラディッシュでの講演に続き、9月には中国各地で講演。四川省の四川城市职业学院、浙江省の浙江工業大学之江学院、西安省の西安明德理工學院、湖南省の株洲北大公学附属学校で教壇に立ちました。

現地では雑誌取材を受けるなど反響も大きく、こうした交流を通じて留学生を受け入れるなど多面的な展開を予定しています。

また、医療保健科学部では、国際的視野を持つ学生を育てるために、海外研修を企画。2月25日～3月4日の9日間の予定で、看護学科、リハビリテーション学科(理学療法学専攻、作業療法学専攻)の1年生がイ



ギリスへ。医療保健科学部長の横井裕一郎教授、国際コミュニケーション学科のEnslen Todd Robert准教授らが引率し、イギリスの医療福祉を学ぶ予定です。

HBUでは学生・教員による海外との交流を通じて、北海道、日本の医療福祉の課題解決に取り組める学生を育てています。第一弾となるイギリスでの研修の様子は、次号で報告する予定です。ご期待ください！

へ向けてGO!

世界的な雑誌『TIME』誌でHBUが話題に!

世界的に知られ、影響力も大きい米国の雑誌『TIME』。なんと、11月に発売されたそのTIME誌にHBUと渡部俊弘学長が取り上げられました。

広告? いえ、違います。昨年夏に一度、取材のオファーがあった際にはスケジュールの都合で断った経

緯があり、再度の打診で取材が実現しました。地方都市の私学でありながら、海外の大学との交流や留学生の受け入れなどを熱心に進め、多様性の時代に即した展開で、グローバル人材の育成に取り組んでいるHBU。海外メディアの目には興味深く映ったようです。



Innovation Holds the Key to Japan's Future

Research and development has always been at the heart of Japan's economic success, and now a new generation of businesses is going even further with technological leaps.

Japanese business has always had to work harder and smarter to succeed. Competing against bigger neighbors and lower-cost rivals, Japan has had to make the most of every advantage to thrive. That includes the innovative drive that has kept the nation at the cutting edge of technology for decades. Across all different types of businesses and sectors, Japanese industry is famous for its pioneering research and development (R&D). Hiroyuki Murai, president of Nippon Resin Corporation, outlined that his firm carries this out in cooperation with other stakeholders. "As a basic model, we do R&D via collaborations with equipment manufacturers where we have a common project to tackle together. This type of arrangement is crucial for our company to expand," said Murai. Junichi Tsubota, president of Kodama Chemical Industry Co., Ltd., also believes in R&D teamwork. "Because we are producing complete design, so that we can then follow this plan and propose something better," said Tsubota. "I also want to conduct with universities for design developments. Right now, we are working on the biggest challenges facing all Japanese businesses is the looming crisis of an aging workforce. The most innovative companies

"We are transitioning towards flexible manufacturing machinery to meet the demands of today."

Akiyoshi Kitamura

are already confronting this issue head-on. "The shrinking population means a shrinking market. We are transitioning towards technology to manufacture more flexible machinery to meet the demands of the times," said Akiyoshi Kitamura, president of Pacraft Co., Ltd. A key driver of innovation is the commitment to quality. When faced with lower-cost rivals, Japan's research and development experts work hard to keep standards ahead of the rest. Maintaining these standards is essential to Japanese manufacturing success, according to president of Takara Industry Co., Ltd., Nobuaki Hizume. "Japanese products always have high quality, and Japanese manufacturers pay attention to the environment so consumers can use the products more comfortably and for much longer," said Hizume. Kazumitsu Takeoka, president of Kirin Corporation, is proud of his firm's commitment to innovation and drive to improve both its product range and quality. "We are always customer-focused. We listen to customers and try to realize their needs and challenges, then we design and propose them to the customers," said Takeoka. "We are centralizing our functions of R&D, manufacturing and sales, and that is why we can ensure that we have high quality in every location," he said.

Learning Together to Reach Out Around the World

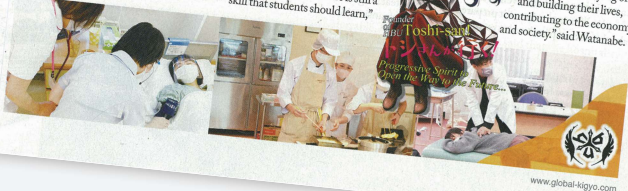


Toshihiro Watanabe
President, Hokkaido Bunkyo University

Japanese education is becoming more global than ever. Hokkaido Bunkyo University, established in 1942 by

Toshi and Shintaro Tsuruoka, is one of the institutions leading the way with outward-looking policies and courses. Hokkaido Bunkyo teaches students about the world, while bringing the world closer with more overseas students. It specializes in practical skills with national qualifications in languages, education among nutrition, childcare and education among many others. In a time of digitalization and remote access, the university also puts a premium on making sure the human factor is as well integrated as possible for all the roles requiring the personal touch. "I believe thoughtful care is still a skill that students should learn,"

said Toshihiro Watanabe, president of Hokkaido Bunkyo University. As part of its global plans, the university is recruiting students from across Asia and strengthening international partnerships. This will help inject new life into Japan's aging society while the university also supports aging Japanese through research on and promoting healthy diets, preventive health care and rehabilitation. "We need to increase the fanbase of Japanese society, with more students coming to the country and hopefully staying on and building their lives, contributing to the economy and society," said Watanabe.



日本語訳

日本の教育はかつてないほどグローバル化が進んでいる。

1942年に鶴岡トシ・新太郎夫妻によって設立された北海道文教大学は、国際的な視野に立った教育方針と教育課程で時代をリードする教育機関のひとつである。

北海道文教大学は、学生たちに世界について教え、より多くの留学生と世界を身近なものにしている。

語学、リハビリテーション、看護、栄養、育児教育などの国家資格を持つ実践的な教育に特化している。

デジタル化(DX)とオンラインの時代にあって、同大学は個人的なタッチを必要とするすべての役割について、人間的要素が

できるだけうまく統合されていることを確認することに重きを置いている。

北海道文教大学の渡部俊弘学長は、「接遇は今でも学生が学ぶべきスキルだと考えています」と語る。

世界的な計画の一環として、また高齢化社会への対策として、健康的な食生活や予防的なリハビリをサポートし、同大学はアジア各国から学生を招き入れ、連携を強化している。

「より多くの学生が日本に来て、できればそのまま留まり、生活を築き、経済や社会に貢献することで、日本社会の“ファン層”を増やす必要があります」と渡部学長は語った。

北海道文教大学附属高等学校 さらなる飛躍を目指して



修学旅行思い出スナップ



10月24日から3泊4日で広島・京都・大阪・奈良を巡る旅でしたが、修学旅行は高校生活の一大イベント。訪れた先々でワクワク＆ドキドキの感動が待っていました。

1日目
(10月24日)

新千歳空港から
広島へ

2日目
(10月25日)

広島平和記念公園
▶▶広島宮島・厳島神社
▶▶京都三十三間堂
▶▶京都清水寺

3日目
(10月26日)

京都・大阪
班別自主研修

4日目
(10月27日)

奈良公園
(東大寺南大門・大仏殿・若草山)
▶▶新千歳空港

地域連携

8月30日

恵庭市立和光小学校を訪問



普通科3年アクティブセレクト・アスリートプログラム・サッカー選択の生徒たちが、恵庭市立和光小学校を訪問。4～6年生までの児童を対象に、サッカーをベースにしたボール運動の実技指導を6回にわたり行いました。かつこいい「先輩」たちは児童から大人気でした。

11月6日・11月13日

恵庭市立恵み野小学校の
6年生2クラスが来校



児童たちが、本校で家庭科の調理実習に挑戦しました。講師は食物科3年生が担当。元氣一杯でパワフルな小学生に負けじと、生徒たちもてきばきと指導。楽しい雰囲気があふれていました。

11月10日

北海道白樺高等養護学校と
学校間交流



6月と7月の訪問に続く第2弾です。今回は、北海道白樺高等養護学校窯業科の生徒が来校。前回作製した皿の贈呈式と、食物科2年生を講師に共同調理実習を実施しました。作ったのは豚汁と三角おにぎり。共に作った料理の出来栄は満点。おかわりが続出したほど好評でした。

12月15日

恵庭市立柏陽中学校の
2年生クラスが来校



恵庭市立柏陽中学校が主催する中高連携事業の一環で、同校の2年生3クラスが来校。相互の教育活動への理解を深めました。本校は、調理実習、理科実験、講話「学びの大切さについて」を用意。調理実習では食物科2年生がサポート役を務めるなど、実りある1日でした。



2021年4月に恵庭市内の新校舎でスタートして3年目。2023年度も学校内外の活動が一層活発になってきました。加えて、地域に根差した活動も定着。地域から信頼される学校づくり、地域から選ばれる学校づくりに向けて、これからも日々の教育活動に積極的に取り組んでいきます。

躍動感あふれる1年。いきる学びを通して、 一人ひとりの可能性を引き出す 健やかな成長の軌跡

学びと思索

平和スタディツアーで被爆地へ

平和を願い、コープさっぽろが開催している平和スタディツアー。8月4～7日、3年生の吉田実愛さんが参加し、広島市を訪問しました。9月22日には修学旅行を控える2年生を対象に報告会を開き、平和学習に重きを置く修学旅行の事前学習の機会となりました。



HBU進学プログラム

附属高校では、1年生から北海道文教大学が設置する学部・学科への理解を深め、附属高校ならではの高大接続教育により専門職への興味・関心を高めています。3年生が訪れたリハビリテーション学科では、エクササイズ器具の「レッドコード」を体験しました。



躍動と感動

全国大会出場! 女子サッカー部 夏の高校総体・冬の高校選手権

7月に帯広で開催された全国高等学校総合体育大会に続き、12月に兵庫県で開催された高校選手権全国大会にも出場しました。全国レベルの基準値を改めて実感する場となり、技術、戦術理解度、体力のレベルアップを決意。全道大会優勝後、原田裕恵庭市長を表敬訪問しました。



強い! レバンガ北海道U18 附属高校で学んだ第1期生が3月に卒業

2021年4月から本校で学んでいるレバンガ北海道U18の選手たち。この3月には第1期生が卒業。ユース育成特別枠に選手登録された内藤耀悠選手をはじめ、全員進路も決まり、新たな一歩を踏み出します。



2023年度の主な試合と成績

10月～12月.....B.LEAGUE U18 ELITE 6 LEAGUE 2023 優勝
11月～12月.....B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2023 優勝
2月.....B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024 準優勝

吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクール 北海道予選札幌地区大会 「高等学校C編成の部」で金賞

吹奏楽部は創部以来、初めての全道大会出場を決めました。全道大会の結果は銀賞。この大会で得た貴重な体験を次年度に活かします。また、9月の定期演奏会などで地域の人たちの前で演奏する機会も増えてきました。移転から3年で全道大会出場を成し遂げた生徒たちの努力に拍手!



今年度は他にも男子サッカー部と写真創作部(写真、美術)も全道大会出場を果たしています。

食物科3年飾り切り作品展示 2023年7月6日



食物科3年卒業料理展 2024年1月29日



2023年度も後半へ こどもたちの成長ぶりに感動の日々

秋から冬へと戸外の環境が大きく変わる季節。こどもたちの生活は、さまざまなふれあいを通じて、感じ、伝え合い、育ちあう豊かな環境にあふれています。

こども同士のつながりに充実感があり、お互いの気持ちもわかるようになってきたことで、互いの関わりにもバリエーションが広がり、多様な体験ができるようになりました。

3歳以上のこどもたちは、友だち同士のつながりが、遊びや生活の中心です。だんだんと大きな集団を意識した生活や遊びが展開され、特に年長児は、一人ひとりの取り組みのみならず、クラス全体を意識して目的を持った活動ができるようになりました。年長のお姉さん、お兄さんとしての気持ちが高まっているようです。

こうした成長ぶりは、この時期になると見受けられ、年長のこどもたちは自分の役割をこなすことで、「誇り高き5歳児」として卒園を迎えます。そして、私たち教員はこどもたちの健やかな未来を願いながら、4月から新たな1年を迎えます。

北海道文教大学附属幼稚園園長 小田進一



めばえ組(0歳児)
毎日楽しんで登園。
ある日、ふとお気に入りの人形に
「はい、どーぞ」と声をかけ、
食べさせてあげる
遊びを始まりました。



つるのこ組(5歳児)
機織りをしています。
完成までに根気のいる作業ですが、
年長児になると集中力もついて、
真剣に取り組んでいます。



幼児クラス(縦割り)
さまざまな年齢のこどもが
一緒に遊び、共に教えあい、
学び合いながら
過ごしています。

つぼみ組(2歳児)
今日は、カボチャを
収穫してみんなで歓びを
分かちあいました。
食育活動です。



みんな、すくすく
元気です！



幼児クラス(縦割り)
冬ならではの雪遊び。
身体もたくましくなり、
寒さに負けず元気に
遊んでいます。



ふたば組(1歳児)
落ち葉を集めて
「おふろ」づくり。
秋の自然を
満喫しました。



2023年9月
～2024年2月

新着 包括連携協定

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1 9月7日 地域の医療人材の育成
SAITO MEDICAL GROUP</p> <p>2 9月14日 システムで地域の人材不足に対応
株式会社One Terrace</p> <p>3 9月19日 大学間連携で北海道を盛り上げる
北海道科学大学、札幌大学</p> <p>4 9月20日 災害に強い北海道へ
株式会社北日本消毒</p> <p>5 10月4日 学生の学習支援をともに
北海道日本語学院札幌本校</p> <p>6 10月17日 実践的な学びで医療人材育成
八雲総合病院</p> <p>7 10月19日 教育・教職の魅力向上に向けて
北海道教育委員会</p> | <p>8 10月30日 地域密着の商品開発
株式会社 三星</p> <p>9 11月6日 地域の国際化や健康増進で協力
東川町</p> <p>10 11月9日 食・健康・美容の研究
DRC株式会社</p> <p>11 11月10日 未活用農水産物の利活用
株式会社エーエスピー</p> <p>12 11月10日 SDGsの実現に向けて
株式会社フロンティアズ・インターナショナル</p> <p>13 11月16日 3社の開発力×HBUの研究力
株式会社ウォーターワールド
株式会社エムシーバイオ
株式会社シリカテックス</p> | <p>14 11月21日 学生・生徒のキャリア構築を支援
札幌山の手高等学校</p> <p>15 12月15日 地域の医療人材を育成
医療法人 愛全会</p> <p>16 2024年1月18日 海藻をテーマに地域活性化
株式会社PLAIN AND SEA</p> <p>17 1月22日 再エネでSDGsを推進
株式会社ビルメン鹿児島
×株式会社明成商会</p> <p>18 1月26日 人生100年時代のヘルスケア
株式会社SHARE</p> <p>19 2月15日 お米をベースに地域の食文化発展
株式会社島田農園</p> |
|--|---|---|





2024 5月・6月・8月・9月・10月 | 2025 3月

※詳細はHPでお知らせします。



開催例(日程により開催時間は異なります。詳しくはHPをご確認ください)

受付

事前にマイページにログインし、
入場用QRコードの表示をしてください



場所 鶴岡記念講堂ロビー

全体ガイダンス

●大学の特徴 ●各学部の学科説明
●入試説明



場所 鶴岡記念講堂 大ホール

各学科プログラム

●学科紹介 ●模擬授業



場所 各学科プログラム教室

個別相談会(希望者のみ)

【各学科】●入試 ●学生生活
●奨学金 ●一人暮らし など



場所 鶴岡記念講堂 多目的室

お申し込みは
コチラから



人間科学部

健康栄養学科

人に寄り添う心を持った
管理栄養士



@hbu_kenko

人間科学部

こども発達学科

子どもを健やかに育てる
専門家を育てる



@hbu_kohatsu

人間科学部

地域未来学科

人と人をつなぎプロジェクトを進行する
中核コーディネーターに!



国際学部

国際教養学科

世界が抱える課題に向き合い、
共に解決する方法を探る



@hbu_kokusai

国際学部

国際コミュニケーション学科

異文化コミュニケーション力を磨き、
世界と北海道の架け橋に



@hbu_kokusai

医療保健科学部

看護学科

多職種連携において専門的役割を
発揮できる看護師の育成



@hbu_nursing

医療保健科学部

リハビリテーション学科 理学療法専攻

チーム医療で地域を支える
理学療法士を育てる



@hbu_pt2006

医療保健科学部

リハビリテーション学科 作業療法専攻

魅力溢れる作業療法の仕事



@hbu_ot2007

活かす人へ

北海道文教大学

〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
TEL: 0123-34-0160 FAX: 0123-34-1640

■人間科学部: 健康栄養学科/こども発達学科/地域未来学科
■国際学部: 国際教養学科/国際コミュニケーション学科
■医療保健科学部: 看護学科/
リハビリテーション学科
(理学療法専攻・作業療法専攻)

北海道文教大学
公式Webサイト



www.do-bunkyo.ac.jp

入試広報課
公式LINE

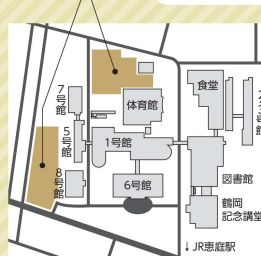


@dobunkyo

オープンキャンパス、
入試のお問い合わせはコチラ▶▶▶ 入試は 入試専用 0120-240-552

入試広報課では、資料請求をはじめ様々なご相談にお答えします。お気軽にご連絡ください。

ACCESS
—アクセス—



■JR利用の場合

- JR恵庭駅から
JR恵庭駅「東口」から直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
- 札幌駅から
「JR千歳線」乗車、3駅目の「恵庭駅」下車後、
東口より直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で24分
(快速エアポートは約12分おきに運行しています)
- 新札幌駅から
「JR千歳線」乗車、2駅目の「恵庭駅」下車後、
東口より直進徒歩8分で
北海道文教大学正門に到着
JR恵庭駅まで快速「エアポート」で15分
(快速エアポートは約12分おきに運行しています)

■自家用車で来学される場合

- 高速道路「恵庭IC」下車。高速道路出口を左折、恵庭川沿大通
(道道117号線)を直進8分で北海道文教大学到着
(駐車場は左に記載のとおり)